

## 「イギリス研修を終えて」 生徒の感想文

2年生 長屋花音

ヘイドンでの交流をしていてまず感じたのは、英語がすごくすごく好きだということです。英語でヘイドンの友達と話せたり、質問しあったりすることができてとても嬉しかったし、もっと上手く喋れるようになりたいと感じました。思っていたよりもヘイドンの子が喋っていることが理解出来て、すごく嬉しかったです。移動教室の時に質問も沢山できたし、ペアの子ともそうじゃないこともたくさん話すことが出来たので良かったです。積極的に話しかけることが本当に大切だなと感じました。

文化紹介では、カルタについての説明をジェスチャーも使いながら説明を頑張りました。説明する時に時間がかからないようにまとめて喋る工夫もすることが出来ました。最初は人が集まるか心配だったけど、たくさんの人が遊びに来てくれて、盛り上がりゲームしてくれたのですごく嬉しかったです。説明も真剣に聞いてくれて、OK とかの返事にも、「わかってくれたんだ」と安心しました。私も相手の話や先生の指示に返事ももっともっとしていきたいなと思いました。また、笑顔もすごく大切だなと思いました。こっちが笑顔でないとゲームと一緒にしても楽しくないだろうなと思いました。

ディスカッションでは、難しい内容で話が伝わるのかすごく不安でしたが、先生たちが言っていたようにうまく喋れなくても積極的に話しかけること、チャレンジしてみることが大切だなと感じました。色々考えながら伝えようと頑張ると、だんだん伝わっていったり、ワードを出してくれて話がつながったりしたのがすごく嬉しかったです。この積極的に話しかけることを英語の授業でどんどん活かしていきたいです。意見を持って発言するように頑張って、さらにそれを上手く英語にできるようにしたいです。

ケンブリッジ大学での研修では、自分のリスニング力を改めて痛感しました。私にとってはヘイドンと違って難しく感じて、ヘイドンよりも聞き取ることが出来ませんでした。これはもっと普段、自分がどれだけ内容を理解しているのか、単語がわかるのかを確認しながら授業を受けようと思いました。少しずつの単語はわかっても、文全体で考えると何が言いたいかわからないことが多くあったので、すごくすごく悔しかったです。でもやっぱり、わかると楽しいなと思いました。質問して、答えてのやり取りを4回ぐらい繰り返してすることが出来た時もあるって、良かったです。

ヘイドンとケンブリッジ大学の研修を通して、普段の授業の中で意見をもつこと、意見を積極的に発信すること、うまく言えなくても恐れないこと、理解しながら話を進めることをまずやります。喋らないといつまでも身につかないので、スモールトークの時間も少しでも多く習ったことや単語を使って話したいし、どんどん質問していきたいです。また、英語版だけに限らずほかの授業の時にも積極的に発言したり、考えを持ってグループ学習の時にみんなに発表したり、もっとポジティブに物事にチャレンジしたいです。せっかくたくさん英語を話す機会が与えられているし、そのチャンスを努力で自分のスキルアップへの方法にしたいです。ザック (ALT) にも積極的に話しかけたりして、どんどん英語を使っていきたいです。

さらに、市内視察や買い物をしている時にも、英語で話しかけられて応えることができて嬉しかったです。でもわかってなくてちゃんと応えられないまま話が終わってしまうこともあって、せっかくのチャンスがもったいないなと思いました。だから、そこで自分からわかるまで質問できるようになりたいです。これも英語の授業で身につけられるように頑張ります。ただ授業を受けるだけじゃなくて、自分が身につけたいことを頭で考えながら、どうしたらできるか考えて授業を受けたいです。

また、今回の研修で学んだことをクラスみんなにも、全校にも伝える機会があると思うので、学んできたことをみんなと共有できるといいなと思いました。

7日間に及ぶ長い研修がついに終わりました。イギリスという異国の地で言語も文化も価値観も違う中、仲間と共に研修をやり抜く事ができました。一日目はほぼ飛行機のなかで特にこれといったことはなかったけど、空港やホテルでの過ごし方を学んだり、初日にポンドを初めて使って買い物をしました。そこで英語を使って乗務員の人やホテルマンとコミュニケーションをとることができました。

二日目はイギリスの市内でセントポール寺院や大英博物館を見学しました。教会の装飾は日本にない美しい造りで、博物館にはミイラやロゼッタストーンなど価値あるものが展示してありました。町並みは日本と違い縦の信号、通りのカフェ、噴水や観覧車、どこかオシャレでビルさえも、さりげないデザインがあり西洋の伝統的な建物も違和感なく町に溶け込んで残っているのが感動的でした。イギリスが好きになった一日でした。また、ガイドさんを中心に時間行動をより意識する一日になった日でもありました。

3日目はヘイドン高校との交流。最初は緊張していて流されるままにその場で対応していました。相手の英語がなかなか聞き取れなかったり、発音が悪くて"Pardon me?"と何度も聞き返されました。しかし、ディスカッションをして落ち着き、それからはうちとけ合えるようになりました。向こうの授業スタイルはすごくリラックスしていて発言も自由で積極的で同じ年齢とは思えない体格のいい子達が元気よく取り組んでいました。日本は決まりに従順で、厳粛な雰囲気が重んじられ、時間にすごく執着する傾向がありますが、それとは正反対な部分も多かったのでカルチャーショックを受けました。けれど日本と同じく個性は人それぞれだし、昼休みに一緒にバスケット、文化紹介を通してなかよくなれました。僕は正しい英語を話そうと必死で言葉の壁がある中友達を作るのは難しかったですが英語が上手く通じなくても笑顔でたくさんの子たちと仲を深める仲間を見て、言葉だけじゃなくて色んな形で気持ちを伝え合えるんだなと実感できました。

4日目は、世界の大学のなかでも5本の指にはいるイギリス屈指のケンブリッジ大学に行きました。いかにも秀才そうな大学生と共に町というかキャンパスのあるケンブリッジ市内を散策しました。生物や物理にでてくる偉人に関する名所を訪れました。大学生の人と今度は自信を持って話すことができました。ナショナルギャラリーでは有名な絵画を山ほど見て回り米須さん(現地ガイド)の話を聞いて面白い事をたくさん知りました。

5日目はシェイクスピアの生誕地やバースへ行ってイギリス独特の建造物や風景を堪能しました。イギリスに将来住んでもいいかなと思えた7日間になりました。また、ヘイドンの子たちと仲良くなれたことも一つだけイギリス研修のメンバーとも以前より仲良くなれた7日間でもありました。先輩たちはホントに移動の時の点呼やディスカッションまでリードしてくれました。普段学校でしゃべったことがないような仲間とも絆を築く事ができました。先生方や米須さんには迷惑をかけてしまいましたが、この研修を同じように過ごせたことがうれしかったです。

これからはまた日本で生活していきますが、たくさんの人との積極的なコミュニケーションでこんなにも毎日が楽しく感じられることを知りました。そんな気持ちを日本でも持って、仲間へ発信していけたらいいと思います。また、日本のあたりまえの気配りやサービスの質が高いこと、素晴らしいことを改めて実感しました。日本の凄い文化をイギリスの人へと伝えたくなったり日本のいいものとイギリスのいいものを組み合わせればもっと素晴らしいことに繋がるはずだと思いました。この経験はグローバル問題やSGHの活動に反映できます。イギリスメンバーとの繋がりをこれからも持ち続け関高校にこれからの社会に、自分にへと新たな変化を与えられるよう日々考えて行動していきたいと思いました。